

|       |                                      |       |       |
|-------|--------------------------------------|-------|-------|
| クラス番号 | 212                                  | ゼミタイプ | 地域研究型 |
|       |                                      | 担当教員名 | 田中 優  |
| テーマ   | 愛知県武豊町・岐阜県下呂市等における地域課題の研究・考察・政策提案・実践 |       |       |

## ゼミナール概要

### 目的、内容、方法等：

本演習では、各種公務員採用試験を志望する者を主たる対象とし、愛知県武豊町や岐阜県下呂市などにおける、受講生が各自興味のある地域課題を選択し、ペーパーによる分析・報告を求める（\*インターネットや文献による調査に留まらず、現地における課題関係者へのインタビューやヒアリング調査も必須とする）。さらに、各回において、その報告内容に基づきグループでディスカッションを行い、テーマとする地域課題に関してグループごとの意見発表を予定する。もって、現下の自治体が抱えている地域課題に関する理解を深めるとともに、論理的な分析力を身に付け、説得的に報告できる能力の涵養を目指していく<前期>。

また、後期では、前期に報告され議論された地域課題のうちから、実際の地域政策現場を生きたフィールドに、初めての「政策形成」を体験していく。

具体的に、受講学生らは、いわゆる政策形成過程における「問題の気づき」から「実施後の評価（検証）」に至るまで、ワークショップ形式の協働学習を重ねていくことになるが、最終的には、多様な地域の課題関係者に触れながら、自分たちで認識的・探索的に問題を抽出し、テーマ設定した上で、それらに対する政策提案に取り組むものとしたい（\*政策提案内容については、課題関係者へ向けたプレゼンテーションを行うことはもとより、評価を得た内容については自分たち自身で実践を展開していくことも想定している）。

### 【到達目標】

#### ①知識・技能の観点

- ・公共問題を考える際に必要となる知識を深める
- ・調査分析によって得られた成果を説得的に伝えるプレゼンテーションスキルを習得する

#### ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点

- ・公共問題について得られた知識をもとに、論理的に分析する際に必要となるフレームワークに関する理解を深める
- ・分析フレームワークを実際の社会問題に適用できる思考力を得る

#### ③主体的な態度の観点

- ・自らの報告を振り返り、適切な改善点を挙げるができる

#### ④協働性の観点

- ・政策提案・実践の作業を通じ、相手の意見に耳を傾け、思いを引き出し、つないで、形にしていくような能力を習得する

### 授業計画（予定）：

第1回 オリエンテーション、第2回 基礎的知識の確認とプレゼンテーションスキルに関するレクチャー

第3回～第14回（各回、1名～2名の報告を予定）、第15回 前期の振り返り

第16回 後期のガイダンス、第17回～第28回政策形成演習（途中で中間報告会も挟む）

第29回 最終報告会、第30回 全体を通してのふりかえり

※テキストや参考書について、使用する場合は、第1回のオリエンテーション時に指示するが、当該演習のイメージを掴むために、田中優『学生・教職員・自治体職員・地域住民のための地域連携PBLの実践』（2018年、ナカニシヤ出版）や「田中ゼミ インスタグラム」[https://www.instagram.com/nfu\\_fg\\_tanaka](https://www.instagram.com/nfu_fg_tanaka)も参照のこと。

### 担当教員からのメッセージ



身の回りの地域課題に対する自らの「気づき（興味・関心）」を、仲間との「築く（解決策立案・実践）」作業に昇華させていきたい前向きな学生の皆さんを歓迎する。なお、演習の性質上、土日祝日や長期休暇期間中のフィールドワーク・合宿等を行うので注意のこと<関連して交通費等の負担もある>（当該演習について、質問等がある方は、[tanakam@n-fukushi.ac.jp](mailto:tanakam@n-fukushi.ac.jp) まで連絡のこと）。

